

応 募 結 果

1 概 要

シーニックバイウェイ北海道推進協議会では、昨年5月にシーニックバイウェイルートとして3ルート、候補ルートとして2ルートを指定し、推進しているところ中、この度、新たに宗谷シーニックバイウェイなど新規に4ルートの提案がありました。

2 提案のあったルート

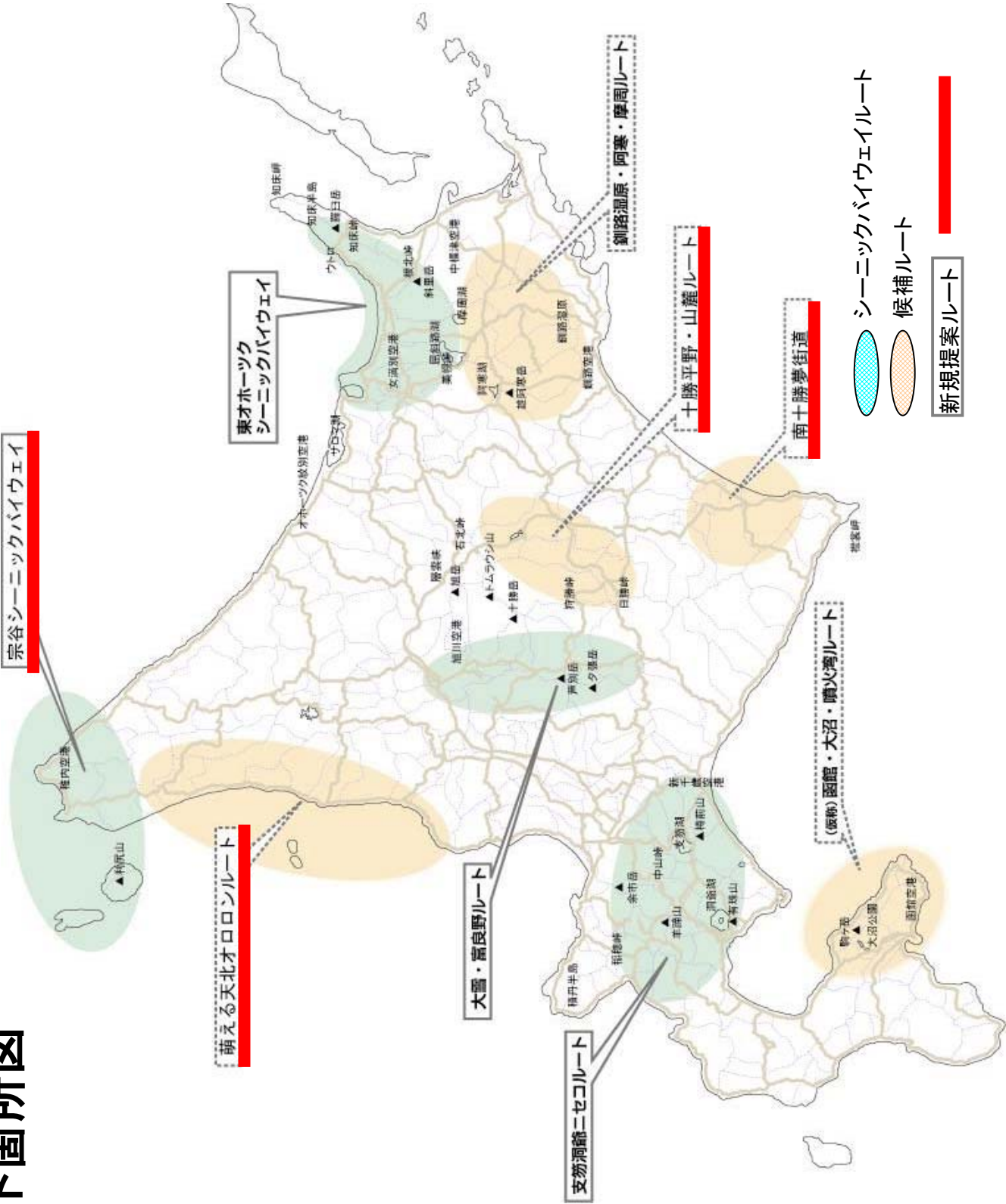
シーニックバイウェイルート

ルート名	宗谷シーニックバイウェイ
関係市町村	稚内市、猿払村、豊富町、礼文町、利尻町、利尻富士町（6市町村）
提案者	宗谷シーニックバイウェイルート運営代表者会議
代表者	岩間幹生（稚内観光協会）
構成団体	17団体

候補ルート

ルート名	南十勝夢街道
関係市町村	中札内村、更別村、幕別町忠類地区、大樹町、広尾町（5町村）
提案者	「南十勝夢街道」ルート代表者会議
代表者	加藤修治（忠類商工会会長）
構成団体	38団体
ルート名	十勝平野・山麓ルート
関係市町村	新得町、清水町、鹿追町、士幌町、上士幌町（5町）
提案者	「十勝平野・山麓ルート」代表者会議
代表者	三井福成（鹿追町商工会会長）
構成団体	22団体
ルート名	萌える天北オロロンルート
関係市町村	増毛町、留萌市、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、幌延町（9市町村）
提案者	萌える天北オロロンルート シーニックバイウェイ代表者会議
代表者	西 大志（苫前町商工会青年部）
構成団体	36団体

ルート箇所図

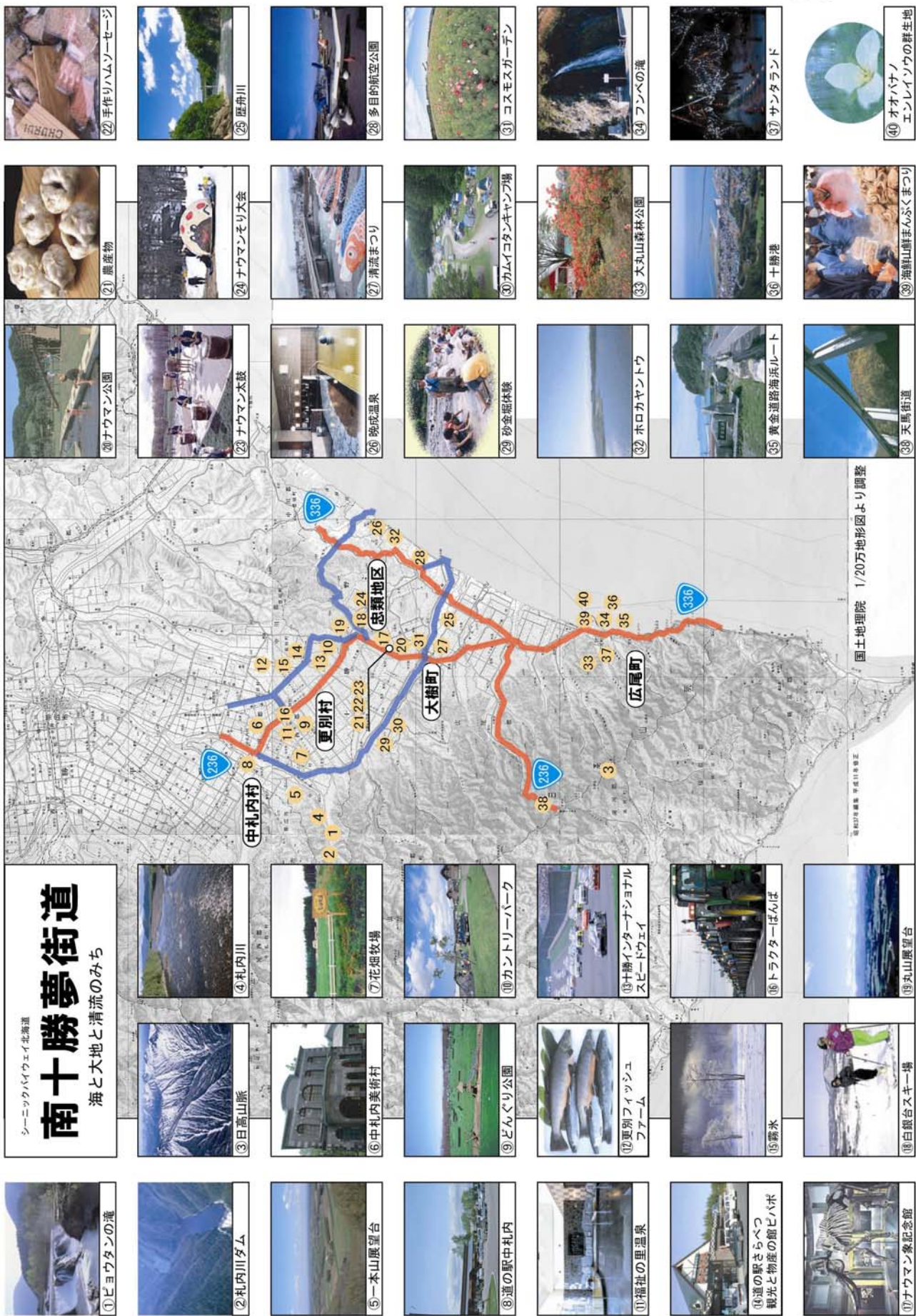


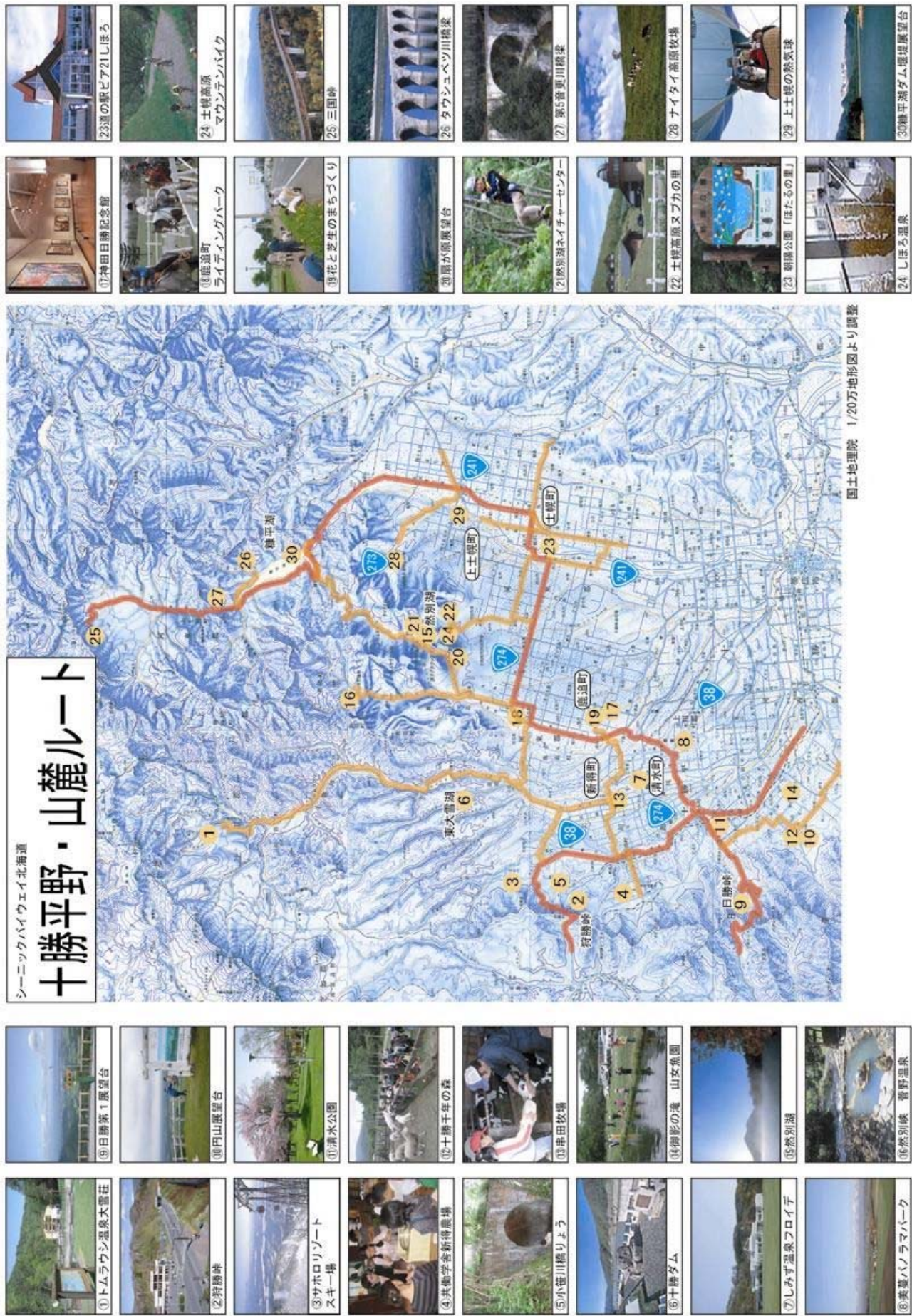
泉谷ソーニクバイウエイ
SOYA Sconic Byway



ザハバン州
RUSSIA







萌える天北オロロンルート

「手をつないだら、ここが一番！見えてきた」

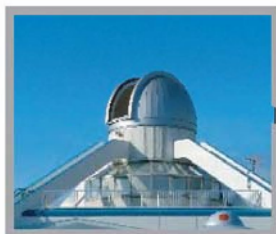
候補ルートは北海道北西部に位置し、その西部で日本海に面する南北に細長い地域である。
エリア内には、幌延町、天塩町、遠別町、初山別村、羽幌町、苫前町、小平町、留萌市、増毛町の9つの自治体があり、
総面積4019.69km²、総人口は65,891人（H12国勢調査）となっている。
軸となるルートとしては、海岸線を縦走る国道231号、232号、宗谷・上川地方と連続する国道40号、
その他「日本海オロロンライン」を構成する主要道道内天塩線、内陸部と連続する国道233号、239号などがある。



天塩町(道の駅「天塩」)



幌延町(トナカイ観光牧場)



初山別村(初山別天文台)



遠別町(ミナクルビーチ)



苫前町(苫前温泉ふわと)



羽幌町(天売・焼尻島への眺望)



留萌市(黄金岬)



小平町(旧花田番屋)



増毛町(歴史的建物群)



- 【凡 例】
- ビューポイント
 - 自然資源
 - 歴史・文化資源
 - 道の駅
 - 温泉
 - 海水浴場
 - その他

■ ルート運営活動計画の概要：宗谷シーニックバイウェイ

 Rebun	誰も見ていないのに、咲いている花 誰もいない原野を、駆け抜ける風 誰の色にも染まっていない 海と空と大地	 Wakkanai
 Fushirifuji	「自分だけの何か」を見つけたいなら 宗谷シーニックバイウェイ	 Sarufutsu
 Rishiri	初めてなのに、どこか懐かしい景色 最北に暮らす、心あたったかい人たち	 Toyotomi

こんな場所に
来たかった・
・
・



宗谷シーニックバイウェイ

はじめに

夕日によってドラマチックなシーンを演じてくれる利尻富士を有する宗谷は、最北の街稚内市や花の浮島と謳われる礼文島、そして広大な高層湿原であるサロベツ原野、日本一広大なホタテと酪農の猿払村が、北緯45度の日本最北エリアを形成しております。

宗谷シーニックバイウェイでは、シーニックバイウェイの活動により、日本最北の地域という距離的ハンデを克服し、当地域ならではの魅力づくりを目指していきます。

また、道路ばかりではなくフェリー航路もバイウェイとして位置付け、宗谷らしい独自の魅力を演出していきます。

宗谷シーニックバイウェイ ルート運営代表者会議

位置及びエリア

■関係市町村

稚内市、猿払村、豊富町、
礼文町、利尻町、利尻富士町

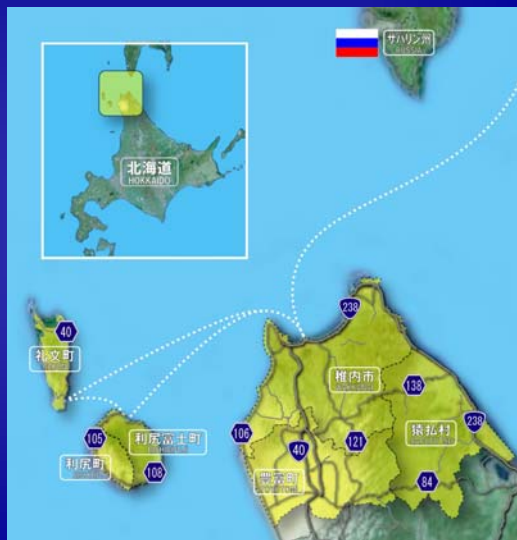
■関係する道路

国道40号、238号の他、
道道、フェリー航路 等

■総人口 58,985人

(平成17年度国勢調査)

■総面積 2,134.98km²



名称とテーマ

■名称 宗谷シーニックバイウェイ

■テーマ あたたかい最北のみち

誰も見ていないのに、咲いている花
誰もいない原野を、駆け抜ける風
誰の色にも染まっていない
海と空と大地

「自分だけの何か」を見つけないなら
宗谷シーニックバイウェイ

初めてなのに、どこか懐かしい景色
最北に暮らす、心あたたかい人たち

宗谷の地域性を踏まえ、ルートを象徴的に表し覚えやすいことを考慮し、
ルートの名称及びテーマを設定しています。



ルートストーリー

宗谷シーニックバイウェイでは、次のルートストーリーの実現を目指します。

- Story1 日本の最北端の変化に富んだ四季が演出する雄大な自然景観を見る。
- Story2 活気・魅力ある『宗谷の素晴らしさ』を伝えるべく、より良い環境づくりを。
- Story3 北海道遺産の指定地や、『次世代に遺したい宝物』を歴史探訪する。
- Story4 この地でしか味わえない『宗谷らしさ』を体験する。
- Story5 都会では決して味わえない『一番旨い海の幸・山の幸』を、食す。
- Story6 宗谷の厳しい自然と共に暮らす、動植物や人々とのふれあいを感じる。
- Story7 日本のてっぺんと花夢を結ぶ航路の中での一期一会がある。



ルートの呼称

宗谷シーニックバイウェイでは、魅力ある11のルートでおもてなしいたします。



各ルートの概要

1) 宗谷ウェルカムロード

宗谷ウェルカムロードは、稚内市の生活を支えている主要幹線道路であり、基幹産業の「酪農」「水産」「観光」を含めたライフライン的な道路です。



2) 宗谷周氷河ロード

宗谷周氷河ロードは、他地域に類をみない自然が創り出した景観をもつポイントです。日本最北端のこの地において、氷河時代の大自然が創り上げた『北海道』を満喫できるルートです。



3) 宗谷ヒストリーロード

宗谷ヒストリーロードは、登録を受けた2つの北海道遺産(宗谷丘陵・北防波堤ドーム)をベースに宗谷の開拓・間宮林蔵を含めた宗谷の歴史を垣間見ることができるルートです。



各ルートの概要

4) 宗谷サンセットロード

宗谷サンセットロードは、日本海側に沿って天塩から最北の街稚内(ノシャップ岬)までを結ぶ68kmの道道です。この日本海にぽっかり浮かんで見える浮島(利尻・礼文)に沈む夕日は、時間を忘れさせてくれる絶景ルートです。



5) サロベツナチュラルロード

サロベツナチュラルロードは、国立公園「サロベツ原生花園」を拠点に、様々な動植物や鳥類・虫類が多く生息するポイントです。サロベツの大自然を満喫することができるルートです。



6) サロベツリフレッシュロード

サロベツリフレッシュロードは、雄大な自然景観・広大な牧場放牧されている乳牛等、のどかな風景に心を癒されます。



各ルートの概要

7) オホーツクホタテロード

オホーツクホタテロードは、紺碧のオホーツク海と広大な緑の台地に挟まれた国道238号を走り抜ける、北の大地に相応しい景観を誇っています。ホタテ漁、牛乳など、食料生産基地としての地位を占めるエリアとなっています。



8) サルフツビレッジロード

サルフツビレッジロードは、沿線に遮るもののない直線道路となり、海岸沿いは「エサヌカ原生花園」として春から秋まで多くの花々が咲き乱れ、高山性の植物群落を形成しています。



9) 利尻ファンタスティックロード

利尻ファンタスティックロードは、日本海に浮かぶ利尻島内を周遊するルートです。紺碧の海と共にルート上から望める秀峰利尻富士は、その姿を刻々と変えます。



各ルートの概要

10) れぶんアツモリロード

れぶんアツモリロードは道々礼文島線の上泊から知床間のどの場所からも秀峰利尻富士の美しい雄姿を眺望することができます。



11) 北の浮島航路

北の浮島航路は、“日本のでっぺん”稚内市と、“夢の浮島”利尻島及び“花の浮島”礼文島を相互に結ぶ日本最北の航路です。



参加団体 ～ 17団体

	NPO法人映像 コミュニティ・ ムーブユー		猿払イトウの会	
宗谷 建設青年会	未来のくらしと宗 谷路(ネットワー ク)を考える会	利尻島を 考える会	稚内観光協会 青年部	稚内 商工会議所
	稚内 青年会議所	稚内のみなとを 考える女性ネット ワーク	稚内 みなとまちづくり 懇談会	
稚内ホテル 旅館業組合	稚内 観光協会	豊富町 観光協会	猿払村 観光協会	利尻町 観光協会
	利尻富士町 観光協会		礼文町 観光協会	

活動の方針と取組み ～ 景観

■活動の目標

宗谷らしさを未来へ伝えるための景観保全と景観づくりを行う

■活動の方針と取組み

1. 雄大な自然景観及び宗谷らしい産業景観を魅せる

- 1) 景観趣向に応じたビューポイントの発掘及びマップの作成
- 2) 景観のための地場産業との連携
- 3) 環境保全を兼ねた清掃活動

2. 魅せるための景観形成

- 1) 春・夏・秋の季節に応じた植樹活動
- 2) アイスキャンドルやスノーキャンドルによる冬の色彩り
- 3) 流木を活用したブランター作り

3. より良い景観整備を目指す

- 1) 商業看板等の規制など景観整備・保全のためのルール作り
- 2) 地元人としての『慣れ』から脱却し、宗谷を再認識するための勉強会の開催
- 3) 地域コミュニケーション形成のための、ボランティアの育成



活動の方針と取組み ～ 環境

■活動の目標

宗谷で考える環境保全と経済活動の両立を内外に発信する

■活動の方針と取組み

1. 住民及び観光客の双方にプラスとなる自然環境及び経済(財布)の両立
 - 1) 宗谷シーニックマイルージ等オリジナルプログラムの提案
 - 2) 観光客への啓発活動
2. 自慢できる自然・雄大な自然景観の保全
 - 1) 環境保全のためのルール作り
 - 2) CO2削減のための植林及び植栽活動
 - 3) フェリー乗り場での泥落とし等外来種混入防止活動の実施
 - 4) 環境保全を兼ねた海岸線での清掃活動
 - 5) 道路等に散乱するゴミ処理問題に対する提案
3. 次世代が安心して豊かな生活を送れる地域づくり
 - 1) 宗谷の素晴らしさに対する認識向上及び啓発のための勉強会の開催
 - 2) 地域の将来を担う子供たちへの教育活動



活動の方針と取組み ～ 情報

■活動の目標

宗谷にかかわるヒトとモノを情報でつなぐ

■活動の方針と取組み

1. 宗谷人の心・温かさを感じる管内での情報発信
 - 1) 観光案内所及び情報ボランティア等コミュニケーションによる情報提供
 - 2) 情報ボランティア等人材の発掘及び育成
2. 広報戦略としての宗谷シーニックバイウェイデザインの統一
 - 1) 宗谷らしいシンボリックなデザインの提案
 - 2) ルート及び情報発信場所における看板等の設置
3. 既往の情報発信ツールを活用したオンリーワンな情報発信
 - 1) 既存ツール(さいほくネット等)及び紙媒体(ポスター等)を活用した情報発信
 - 2) 分科会活動及び団体活動の情報共有・連絡のためのシステムづくり
 - 3) オンリーワンな情報発信内容・方法の提案
 - 4) 情報収集方法の確立に向けたルールづくり



活動の方針と取組み ～ 観光

■活動の目標

宗谷のあたたかさを伝えるおもてなしの心を醸成する

■活動の方針と取組み

1. 観光客の心に残る宗谷の旅の演出づくり

- 1) 空港やフェリーターミナル等宗谷の玄関口における花壇・プランター等の整備
- 2) 「歩いて逢う」をテーマとしたフットパス等の参加型・体験型メニューづくり
- 3) 稚内北防波堤ドーム及び利尻のライトアップ等第一印象のアピール
- 4) 景観趣向に応じたビューポイントマップの作成
- 5) ビューポイントを効果的に結ぶルートの策定
- 6) 三脚台の設置及び大駐車場を備えたカメラ撮影ポイントの整備
- 7) 利尻島の桜等の植栽活動
- 8) 景観整備及び環境保全を兼ねた海岸線での清掃活動

2. 『種』から育てる新たな観光の創出

- 1) 大牧草地を活用したパークゴルフ等のグリーンツーリズムの実施
- 2) 物産等の地域限定商品の発掘及び供給システムづくり
- 3) 外国人観光及び教育・体験旅行の誘致

3. シーニックバイウェイ活動の継続及び地域への浸透

- 1) 活動継続に向けた意識改革のための勉強会の実施
- 2) シーニックバイウェイ活動に対する地域への浸透のためのシンポジウム等の開催
- 3) 地域の将来を担う子供たちへの教育活動を通じた地域づくり



運営の方針

1) 地域自らも楽しむ広域連携による取組み

宗谷地域が連携しながら、地域自らも楽しみ、訪れた方々にも楽しさを提供する仕組みに取り組んでいきます。平成18年度は、宗谷シーニックマイレージシステム※の試行を行う予定です。

※参加カードを購入して周遊する方のために、特典が享受できたり、おすすめの情報が得られたり、また指定されたメニューを履行することでポイントが加算されるシステム

2) 地場産業との連携

基幹産業（漁業、酪農）と連携することで、景観を形成していくことができると考えています。また、その他のサービス業や観光に関わる業種、宿泊業などとも情報を共有し、来訪者へのサービスの向上を図ります。



運営の方針

3) 各団体との情報共有及び管内外への総合的な展開

宗谷シーニックバイウェイには、対象エリアの6つの自治体の観光協会が加盟しておりますので、それぞれが集約している観光情報を共有し、各情報発信拠点(案内所・道の駅)から発信すると同時に、景観分科会・環境分科会・観光分科会と情報分科会との連携を図りながら、宗谷管内外への総合的な展開に取り組んでいきます。

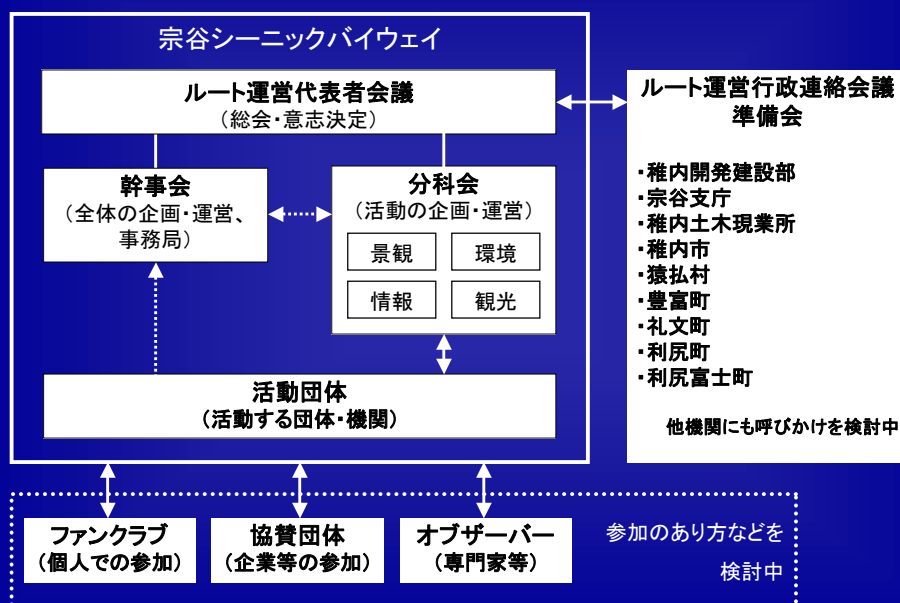
4) 自己啓発及び地域浸透のための勉強会・シンポジウム等の実施

4つの分科会(景観・環境・情報・観光)が広域的かつ有機的に連携して機能させるためには、メンバー自身の啓発とともに、地域への浸透を図っていくことが重要なポイントになります。各分科会の活動テーマに沿った勉強会やシンポジウムを各エリアで開催します。



運営体制

2006年4月現在



平成18年度の予定

1) 活動の方針と取組の推進

各テーマ毎に分科会が中心となり、活動の企画・運営・実施を行います。

2) ルート全体事業の推進

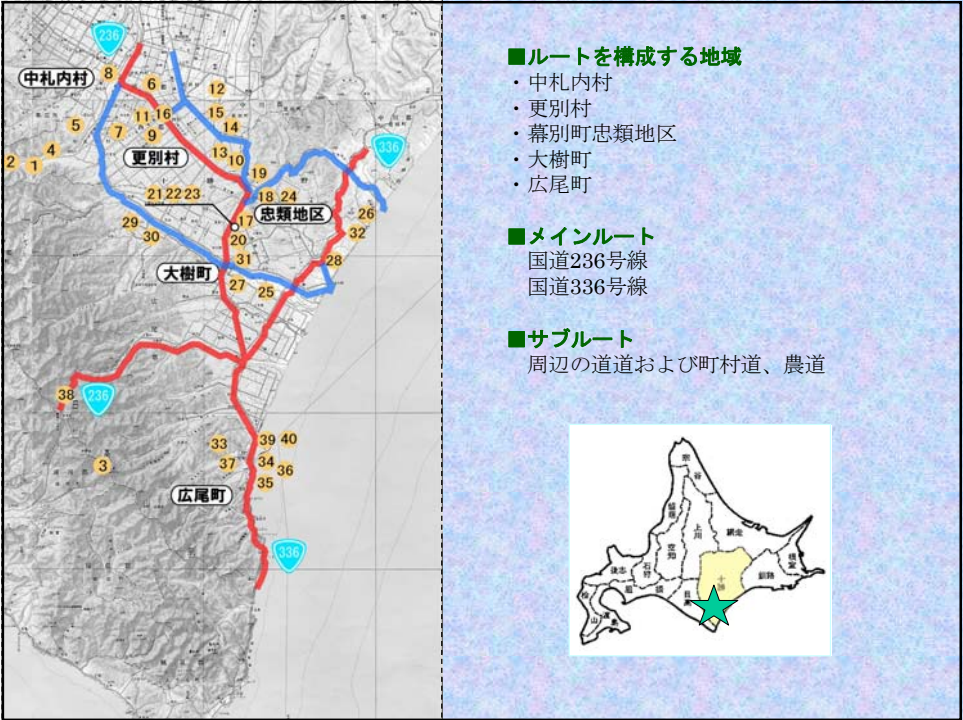
宗谷シーニックマイレージシステム、ロゴマーク等シンボル、情報の共有等、ルート全体で取り組む活動について、幹事会が中心となり、活動の企画・運営・実施を行います。

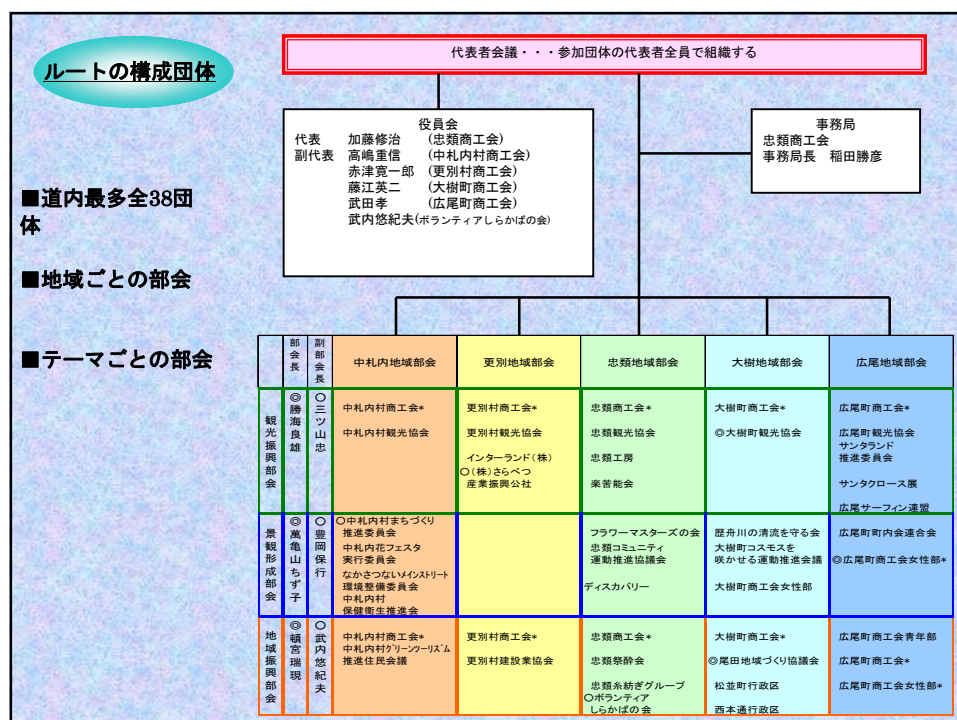
3) 地域全体での取り組み体制の検討

活動団体以外の方(個人、企業、専門家、関係機関等)の参加について検討・呼びかけを行い、シーニックパイウェイの活動を通して地域の活性を行います。



■ ルート運営活動計画骨子の概要：（候補）南十勝夢街道





景観形成部会の活動

【実行可能な連携活動】

・各町村のネットワークを形成する

南十勝全域で景観形成していくための土台となるものである。景観形成は実際に行なうとなると時間がかかるものであるため、その間に各町村で情報交換、検討を行ない、景観形成を行なっていく。

・既存の景観にさらに注目、着目してもらえ工夫、広報活動等の展開

商店街の花以外の、広大な面積の畑、十勝平野、カラマツ防風林、サイロなど、普段目にしており、あまり意識していないが外部の人から見れば壮大で美しい景観を紹介するものである。看板等でそのスポットを紹介(誘導)出来る事が望ましいが、看板作成は課題が多いため、まず第一歩として道の駅等で紹介、案内するような広報資料、マップの作成を目指す。

【景観形成部会として将来的に取り組みたい活動】

・看板による景観ポイントへの誘導

国道などの大きな通り以外の脇道、商店街で植えられた花壇やプランターを見てもらえるよう、大きな通りから脇道への誘導をする看板を作成してみたい。看板は南十勝で形式を統一し、南十勝夢街道の景観ポイントだと分かりやすいものにする。また、市街地以外の町から町への道にも、景観ポイントには看板を設置してアピールしていきたい。

・道路沿いにヒマワリを植える

道路沿いのヒマワリは農家が緑肥として畑で栽培しているものだが、それを農家に呼びかけ、畑の脇にもヒマワリを植えてもらうよう働きかける。ヒマワリの緑肥に対しては援助金が出るとの情報があるので、調査した上で農家の方々の協力を仰ぐ。

【景観形成の課題】

景観形成を行なっていくうえで重要な課題となるのは、花壇等の維持管理を行なう点で町民の協力が必要不可欠であるということ。この課題をどう解消するかを来年度具体的に活動を進める中で協議していく。また、更別村からの参加団体が少なくルートに穴が開いてしまう可能性もあるので、更別村の団体の参加を促していく。

観光振興部会の活動

【実行可能な連携活動】

・観光情報ネットワーク(自分たち用)の確立と道の駅どうしでの情報交換

地域の魅力に対する自分たちの目と、外部からのまなざしの比較(前掲表)から、他町村のイベントや観光スポット等の情報不足が明らかになった。体験的にも、道の駅等では隣接町村の情報を求められる事が多いが応えられないという現状がある。外部に対する発信はもちろん重要だが、まず南十勝夢街道に参加する団体同士の情報交換のシステムを確立する必要がある。

・花に関する活動の連携とすり合せ

ボランティアサポートプログラムは複数のエリアで取り組まれているので、日程を調整するなどしてシーニックの連携活動として積極的に位置付け、統一活動を展開する。植える花を統一することには様々な問題も考えられるが、コスモスなど手入れの楽な花で統一することも検討する。

【観光振興部会として将来的に取り組みたい活動】

・ルート全体としての観光情報の一元的管理

情報誌等によって、観光客のほうに様々な情報に詳しいという状況が生まれている。こうした状況を解消するために、連携活動としての情報交換をもう一歩進め、情報を一元的に管理し、カテゴリー別の表などを作って、観光客の様々な要求に迅速に応えられるようにする。また、シーニックコンシェルジュ制度の導入なども視野に入れる。

・フォトコンテストの実施と南十勝写真カレンダーの作成

海と山並み、樹木、耕地防風林など南十勝の四季折々の自然を題材にフォトコンテストを実施し、集まった写真を使用してカレンダー(イベント情報を含む)を作成する。写真はTシャツの製作などにも活用したい。

・ビューポイントの整理とそれを元にしたツアーやマップ、拠点の作成

情報共有と整理を進める中で浮かび上がるスポットを基準に、情報マップを作ったりルートツアーを企画したりする。

・シーニックインフォメーションセンターの設立

観光客が多い休日は観光協会が休みであるという現状がある。また、観光客の多い休日は観光協会が休みであるという現状がある。また、観光客の多い休日は観光協会が休みであるという現状がある。また、観光客の多い休日は観光協会が休みであるという現状がある。また、観光客の多い休日は観光協会が休みであるという現状がある。

地域振興部会の活動

【実行可能な連携活動】

・花に関する活動

花に関する活動はすでに各町村で行われている。更別村も村の中心部である本通り商店街の植栽活動を行っていることから、植栽の日程を調節すれば、各町の連携は可能である。植栽する花については連携の意味もあり統一するか、それぞれの個性を出すかで意見が分かれ、今後の協議事項となった。

・交通安全、地域の安全に関する活動

交通安全に関する活動は、更別村で来年度より建設業協会を中心に活動が開始される。他の町村でも地域の安全に関する活動の必要性を感じていることから、日程をあわせてワッペンの配布のようなキャンペーンを実施しては、という意見があげられた。

・清掃活動、クリーン作戦

清掃活動については、広尾町ではすでにメディアもまきこんで大規模に活動がされていること、北海道クリーンキャンペーンで5月に活動を行っている団体もあることから、日程を調節し、清掃活動を実施することは可能である。これまでより広い地域で活動が行われることで、きれいな街、道をアピールすることが可能となる。

【地域振興部会として将来的に取り組みたい活動】

・花をイルミネーションで彩る活動

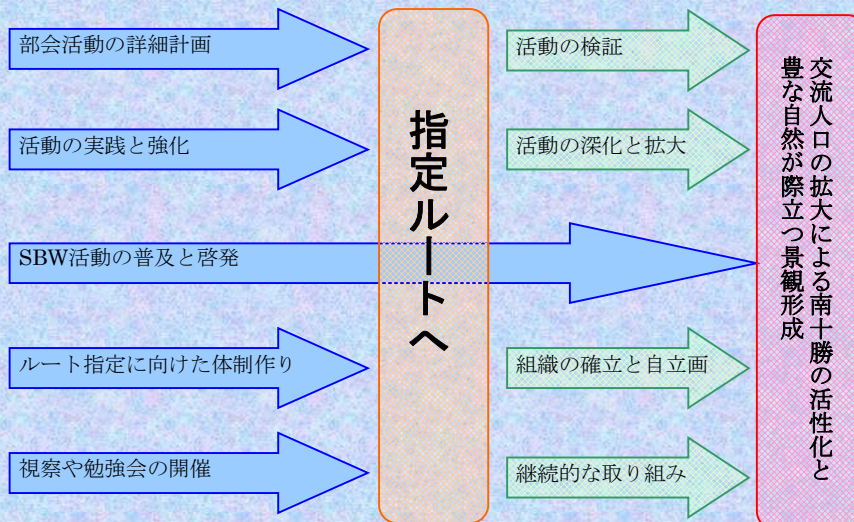
冬季の青色のイルミネーションに寒々しい感じを受けるということから、電気代の安い青い光を用いて夏に行ってはどうかという提案がなされた。また、花壇やプランターをイルミネーションで彩り、地域の特徴を出してはどうかという意見もあげられた。費用の捻出方法が今後の課題である。



平成18年度の活動の予定

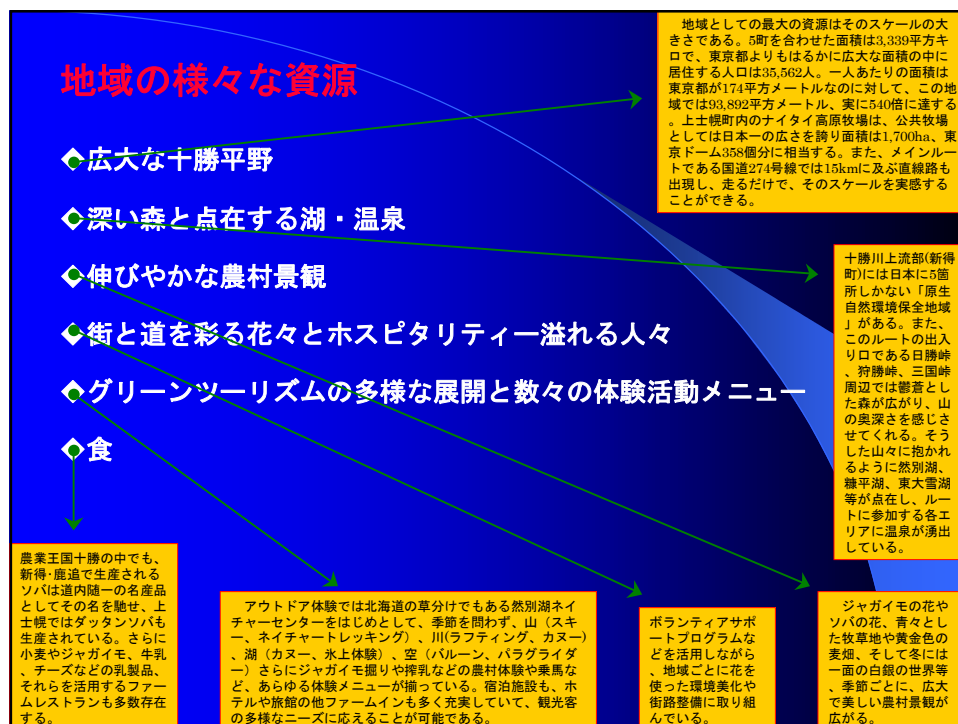
- | | | |
|---|-----|--|
| ■ | 4月 | 南十勝夢街道 ルート調査 |
| ■ | | 花関連、連携活動に向けた部会検討 |
| ■ | 5月 | 18年度第1回代表者会議 |
| ■ | 6月 | <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ・VSP連携活動
 ・交通安全、清掃活動等実施方法の検討 </div> |
| ■ | 7月 | |
| ■ | 8月 | |
| ■ | 9月 | 18年度第2回代表者会議 |
| ■ | 10月 | |
| ■ | 11月 | <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ・交通安全、清掃活動等実施
 ・情報ネットワーク構築準備の検討
 ・フォトコンテスト等準備活動
 ・冬季ルート調査 </div> |
| ■ | 12月 | |
| ■ | 1月 | |
| ■ | 2月 | |
| ■ | 3月 | 18年度第3回代表者会議 |

平成18、19年度活動のイメージ



■ ルート運営活動計画骨子の概要：（候補）十勝平野・山麓ルート





【景観形成分科会の活動計画案】

地域資源の再発見と再評価の活動	
1	散策路（遺産・史跡・文学巡り）ルートの策定 ・5町ルートの各テーマを、散策路で活用、名称こそ違いますが、類似したものは各町にある。
2	シーニック十景（ビューポイント）ルートの策定 ・ルート各町のビューポイント（各町2場所×5町＝10景）をピックアップし景観ルートに加える。
3	5町の花見ポイントの策定 ・春夏秋冬の花見ポイントをピックアップ。 （1. 花見ポイント 2. 遊歩道 3. 温泉 4. 食 5. トイレ 6. バーベキューハウス等）
4	馬の道及び遊歩道マップ
地域の魅力をアップするための具体的活動	
5	「夏」花による景観整備 ・夏のルート沿いを「花」で彩り景観を整備する。
6	「冬」アイスキャンドルの製作・設置 ・冬のルート景観をアイスキャンドルで彩る。
新たなイベントによる魅力アップの活動	
7	フォトコンテスト（フェスタ）の開催 ・ルートの写真（景観中心の）を観光客等より募集して、展示会やPR素材として活用する。
8	スタンプラリーの実施 ・（温泉、パークゴルフ、ソバ、ビューポイント等）
広域連携とルートPRのための活動	
9	5町シーニックバイウェイホームページ及びパンフレットの作成
10	統一ルート上のサイン（看板）の設置
調査研究活動	
11	景観阻害要因の調査と改善
12	環境調査研究（臭いの出さない飼料 臭いのないルート）

【地域づくり分科会としての活動計画案】

地域連携を促進しルート全体の魅力を高めるための活動	
1	ボランティアサポートプログラム（VSP）の連携活動 ・植栽・花壇草取り及び道路清掃活動を連携して活動展開する。また、現段階で活動のない地域へも活動情報の提供をして連携を図る。
2	地域ルート相互の情報交換会（情報の共有）及び勉強会 ・5町のシーニックバイウェイ参加団体等、地域の関係及び活動内容等より深く知るべく、5町の情報交換会及び勉強会の開催し、情報の共有を図る。
SRW活動の拡大に関する活動	
3	地域団体等へのシーニックバイウェイ活動の紹介及び参加推進 ・シーニックバイウェイ活動の内容を詳細に紹介して、広報活動及び参加推進を図る。また、地域の未参加団体の活動内容等を集約・調査をする。
SRW活動を継続的に展開するための活動と研究	
4	地域ルートのイベントサポート
5	活動資金源の調査研究

H18年度年間活動計画案

	全体	景観形成	地域づくり	観光振興
H18/4月	ルート調査			
5月	代表者会議		シーニック紹介活動	
6月		VSP連携活動	VSP連携活動	VSP連携活動
7月		VSP連携活動	花フェスタ	花フェスタ
8月		VSP連携活動	VSP連携活動	VSP連携活動
9月				スタンプラリー検討
10月		フットパスの集い		
11月	ルート調査			
12月				
H19/1月		アイスキヤンドル		
2月	先進事例報告会			
3月	代表者会議			

スケールは日本一・・・広さ・環境・ツーリズム・農

十勝平野・山麓ルート

をよろしくおねがいします

広大な十勝平野の西北部、日高と東大雪の山裾を巡るルート上に、希少な動物たちが息づく原生林、訪れる人の心を癒す森と湖、エコツアーやグリーンツーリズムなどのあらゆる体験施設と地域産業である「農」の素材を活かしたファームレストランなどが点在する。

5町を合わせた面積は3,339平方キロで、東京都（2,187平方キロ）や沖縄県（2,273平方キロ）よりもはるかに広大である。

■ ルート運営活動計画骨子の概要：（候補）萌える天北オロロンルート



1. ルートの概要

● 関係9市町村

幌延町、天塩町、遠別町、
初山別村、羽幌町、苫前町、
小平町、留萌市、増毛町

● 主な幹線道路

国道231号、国道232号、国道233号
国道40号、国道239号
主要道道稚内天塩線 など

● 総面積：4,019.69km²

● 総人口：65,891人（H12国勢調査）



2.景観資源

■日本海を望む雄大な海辺の景観



■天売・焼尻島への眺望(羽幌町)

■変化のある内陸の地形と自然



■サロベツ原野から望む利尻岳(幌延町)

■歴史を感じさせる街並みと施設



■旧花田番屋(小平町)



3.観光資源

■自然公園

- ・「利尻礼文サロベツ国立公園」
- ・「暑寒別天売焼尻国定公園」
- ・「朱鞠内道立自然公園」

■海浜レクリエーション施設

- ・各市町村にある10箇所の海水浴場
- ・上川、空知から海水浴客が訪れる

■温泉施設

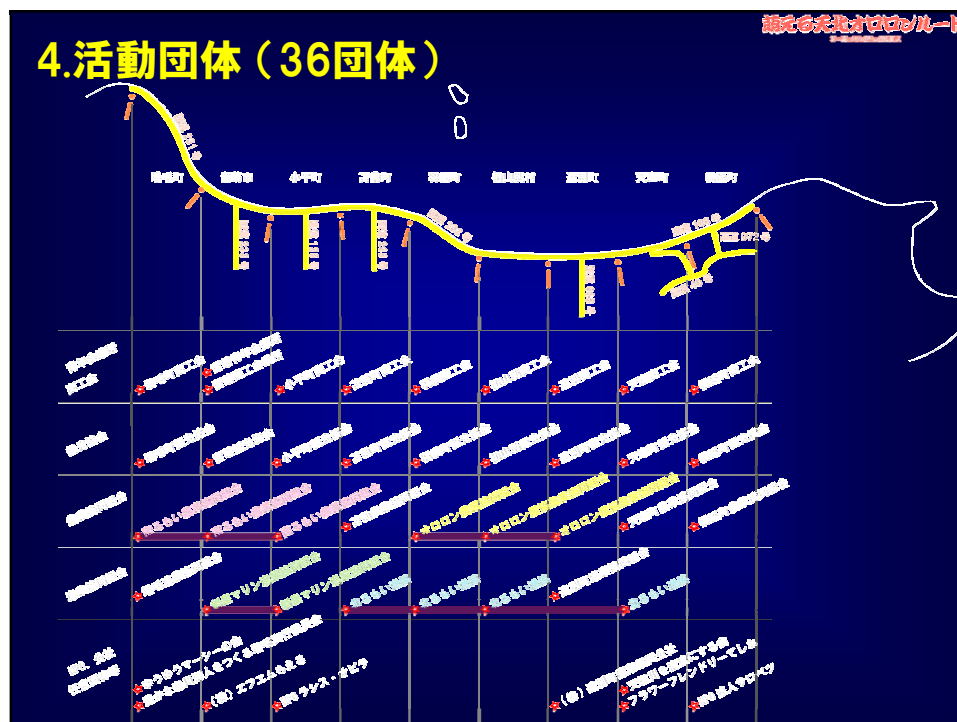
- ・温泉を活かした新たな施設整備(9箇所)
- ・通年型、滞在型観光への展開

■イベント

- ・広域イベント「日本海オロロントライアスロン大会」
- ・各地の特産品を活かしたイベント



トール口才北天右元顔



趙元石天北才口口口ル一ト



6.基本方針設定の2つの視点

■「景観づくり」を推進するための活動方策の視点

- ・豊かな自然環境の保全と眺望の活用
- ・歴史的資源を活用した景観形成
- ・花を活かした沿道景観形成
- ・フォトコンテスト等の写真による地域景観のアピール

■「食による観光振興」を推進するための活動方策の視点

- ・地域の食材の多様性、安全性のPRと「食育」の普及、推進
- ・地産地消をテーマとした地場産品の流通・販売ルートの確立
- ・新たな地域ブランドの開発
- ・食による観光推進のための、既存の飲食店との連携やイベント等の取り組み

7.今後の取り組み

①ルート運営体制の構築

活動団体の参加の拡大を図るとともに、各団体間および行政等関係機関との密接な連絡調整と協働により、ルート運営活動計画の検討やその他の活動を推進する。また、将来的な他ルートとの連携を視野に入れた活動に留意する。

②活動の周知、普及・啓発

シーニックバイウエイに関わる活動について、活動団体はもとより広く地域住民に周知・普及・啓発するために、各活動団体による情報発信、コミュニティFM等の地域メディアの活用、広報・PRイベント等の開催を行う。

③イベントを契機とした地域連携の取り組み

「日本海オロロンライントリアスロン国際大会」等の既往の地域協働型イベントを活用し、これとあわせてシーニックバイウエイに関わる各種活動を展開することにより、今後の地域連携の強化と意識醸成の契機とする

④他ルートの視察および勉強会の開催

当該ルートの今後の本格的な活動に先立ち、既に活動を始めている他ルートの視察や、国内外のルート運営の情報収集、勉強会の開催等を行い、組織運営や活動計画の検討に役立てる。

8.平成18年度の活動計画

【花部会】

- ・エゾカンゾウ植栽の勉強会
- ・トライアスロン大会における沿道プランターの設置



【食部会】

- ・出店物開発(新しい地元名産品)
- ・留萌青年会議所50周年記念事業でのPR



※オロロン鍋の開発実績

【景観部会】

- ・フォトコンテストの実施(活動団体主催)
- ・景観診断の実施



※H17年度フォトコンテスト

シーニックバイウェイルート 審査方針

1. ルート指定の目的

シーニックバイウェイルートは、地域住民等が主体的に地域資源の保全・改善等のための活動を行うルートであり、「美しい景観づくり」、「活力ある地域づくり」、「魅力ある観光空間づくり」のために重要であり中心となる道路およびその沿線に立地する建造物や林帯等道路から道路利用者の視覚に影響を与える範囲で、地域活動団体が活動を行おうとする範囲である。地域活動団体等は、ルート内の景観、自然、歴史、文化、レクリエーション資源等の地域資源の保全・改善のための活動を総合的に実施し、質の高い旅行空間の形成を目指しルートを運営する。

そこで、ルート指定は、このシーニックバイウェイルートについて、シーニックバイウェイを称するにふさわしいルートを協議会に対して推薦し、地域および旅行者に対して、地域への愛着・誇りの醸成、旅の快適性の向上、ストレスの少ないツーリング環境の形成、地域ブランドの形成することを目的としている。

2. ルート指定のために必要な書類

- ①シーニックバイウェイルート提案書
- ②ルート運営活動計画
- ③ルート運営活動計画に対する対象市町村長の意見

3. ルート指定の審査方針

- ①目的に対する合理性の確保

ルート指定の目的を達するために、審査の観点を定める。

- ②審査における公平性の確保

審査においては、公平性の確保に努める。

- ③手続きにおける透明性の確保

ルート指定手続きにおける申請から指定までの透明性を確保することに努める。特に、公募方法、審査結果については、適切な手段により情報提供、公開を行う。

4. ルート指定の審査基準

(1) 指定書類の確認

指定書類の提出については、協議会事務局が確認を行う。

- ①シーニックバイウェイルート申請書
- ②ルート運営活動計画
- ③ルート運営活動計画に対する対象市町村の意見（候補ルートについては添付なし）

（２）ルート運営活動計画記載事項の確認（シーニックバイウェイルート募集要項による）

シーニックバイウェイ北海道実施要綱に基づき、以下の項目について審査を行う。

- ①当該ルートの地理的範囲に関する事項
- ②当該ルートの愛称に関する事項
- ③当該ルートの特性と課題に関する事項／当該ルートの特性と課題が、他地域に比して優れた景観資源などが明記されているか。また、活性化に関する資源が整理されているか。
- ④当該ルートにおける活動団体が行う活動の現状に関する事項／当該ルートにおける活動の現状について、活動団体と活動状況がタイプ分類され、ルート運営のための活動実績等が明示されているか。
- ⑤当該ルートの基本方針に関する事項／ルートの基本方針について、大切にすべきイメージなどを含めて方針が整理されているか。
- ⑥当該ルートにおいて活動団体がこれから行おうとする活動に関する事項／当該ルート運営に関する事項について、活動プログラムおよびルート景観形成や地域資源の調査・保全・活用のための活動が明記されているか。

（３）ルート運営活動計画の要件について（シーニックバイウェイ北海道実施要綱による）

- ①当該ルートが優れた景観資源（潜在的資源を含む。）を有し、かつ、当該ルートにおける景観以外の地域資源のうち自然資源、歴史資源、文化資源又はレクリエーション資源のいずれかひとつ（潜在的資源を含む。）について優位性が認められること
- ②提出されたルート運営活動計画を活動団体が主導的に推進しようとしていること
- ③地域住民等と行政が一体となって景観をはじめとする地域の魅力向上に取り組んでいくことができること
- ④ルート運営活動計画の推進を通じ、当該ルートにおける景観の質の向上、当該ルートのブランド化及び当該ルートが存在する地域の活性化が見込まれること

５．審査方法

- ①委員各々が、別添資料の記入用紙により評価および推薦の可否を判断
※推薦の可否に係わる審査委員会を開催しない
- ②協議会事務局が推薦結果とりまとめ、協議会により指定の可否を決定

評価シートにおける記載事項と要件の対応

ルート運営活動計画記載事項	ルート運営活動計画の要件
①当該ルートの地理的範囲に関する事項	(範囲ルートが適切か)
②当該ルートの愛称に関する事項	(対象地域の愛称として適切か)
③当該ルートの特性と課題に関する事項／当該ルートの特性と課題が、他地域に比して優れた景観資源などが明記されているか。また、活性化に関する資源が整理されているか。	①当該ルートが優れた景観資源（潜在的資源を含む。）を有し、かつ、当該ルートにおける景観以外の地域資源のうち自然資源、歴史資源、文化資源又はレクリエーション資源のいずれかひとつ（潜在的資源を含む。）について優位性が認められること
④当該ルートにおける活動団体が行う活動の現状に関する事項／当該ルートにおける活動の現状について、活動団体と活動状況がタイプ分類され、ルート運営のための活動実績等が明示されているか。	②提出されたルート運営活動計画を活動団体が主導的に推進しようとしていること
⑤当該ルートの基本方針に関する事項／ルートの基本方針について、大切にすべきイメージなどを含めて方針が整理されているか。 ⑥当該ルートにおいて活動団体がこれから行おうとする活動に関する事項／当該ルート運営に関する事項について、活動プログラムおよびルート景観形成や地域資源の調査・保全・活用のための活動が明記されているか。	④ルート運営活動計画の推進を通じ、当該ルートにおける景観の質の向上、当該ルートのブランド化及び当該ルートが存在する地域の活性化が見込まれること
(シーニックバイウェイルートは自治体長からの意見照会回答を、候補ルートは今後の取り組みを参考)	③地域住民等と行政が一体となって景観をはじめとする地域の魅力向上に取り組んでいくことができること

6. 審査の視点

§ 審査の視点1 優れた景観資源の有無および地域資源の優位性について

§ 審査の視点2 活動団体によるルート運営活動計画の主導的な推進について

§ 審査の視点3 地域住民等と行政が一体となった地域の魅力向上の取り組みについて

§ 審査の視点4 景観の質の向上、ルートのブランド化、地域の活性化について

§ その他全般的な感想

§ シーニックバイウェイルート・候補ルート指定の推薦の可否について

審査委員会 委員名簿

北海道大学大学院教授 小林 英嗣（委員長）

筑波大学大学院教授 石田 東生

北海道大学大学院助教授 高野 伸栄

（社）日本旅行業協会理事・事務局長 石山 醇

NPO 法人北海道・花ネットワーク 理事 三島 敬子

財団法人 日本放送協会放送総局 目加田 頼子

■ シーニックバイウエイルート審査委員会による審査結果概要

(1) シーニックバイウエイルート

①宗谷シーニックバイウエイ

視 点 委 員	1					2	3	4	推 薦 可 否	付 帯 意 見
	景観	自然	文化	歴史	レク					
A	○	○			○	○	○	○	○	特になし
B	○	○				○	○	○	○	特になし
C	○	○		○		○	○	○	○	①建物・構造物・看板等の規制・誘導のガイドライン設定と指導の強化②17団体間の連携活動の強化③全体の企画・運営・マネジメントの体制と力の強化が不可欠④自然・景観資源に加えて、歴史的文化の利活用
D	○	○				△	△	○	○	活動団体の活動内容、地域住民との関わり、行政との連携が十分なものと明らかにする必要がある
E	○	○	○	○		○	○	○	○	①食の工夫、行政との強い連携・協働の姿が見えづらい②各地域の顔づくり
F	○	○		○					○	

(2) シーニックバイウエイ候補ルート

①南十勝夢街道

視 点 委 員	1					2	推 薦 可 否	付 帯 意 見
	景観	自然	文化	歴史	レク			
A	○				○	○	○	十勝山麓ルートとの関係、海の代表であり全国ブランドを既に有する襟裳岬の取り込みなどについて、積極的に検討
B	○	○				○	○	あくまでも襟裳岬地区とのコラボレーションが前提
C	○	○				×	△	①ルート全体の理念・目標・指針を明確にし、共有していくことが急務②分科会活動を積極的にすすめてほしい③外部からの知恵も借りながらスタートするののも一つの方法では④人材発見と育成が急務
D	○	○				△	○	十勝ルートとの関係の明確化（コンセプトの差別化、アイデンティティの確立）
E	○	○	○			×	×	①全体のコンセンサスがとれていないように感じる②お客様をお迎えする体制が弱い③南十勝の自分たちのまちの魅力に気づいていない④PR不足（PR下手）
F	○	○					○	

②十勝平野・山麓ルート

視 点 委 員	1					2	推 薦 可 否	付 帯 意 見
	景観	自然	文化	歴史	レク			
A	○	○			○	○	○	南十勝ルートとの連携、できれば一体化についての前向きな検討と議論を期待
B	○	○			○	○	○	北海道の主要なシーニックバイウエイルートを繋ぐ重要なルートである。通過地点から脱却し、固有のルートとして優位性を発揮してほしい
C	○	○				×	○	①ルート全体での目標・行動指針等の共有化が不足。体制の強化。再編も視野にいれて②地域への共有の意識が少ないのでは。活動団体の単なる集合では、ルート指定への道は遠い③人材の発掘と育成が緊急・不可欠
D	○	○				△	△	南十勝との関係の明確化（コンセプトの差別化、アイデンティティの確立）
E	○	○	○		○	○	○	特になし
F	○	○			○		○	

③萌える天北オロロンルート

視 点 委 員	1					2	推 薦 可 否	付 帯 意 見
	景 観	自 然	文 化	歴 史	レ ク			
A	○	○		○		○	○	特になし
B	○	○	○	○	○	○	○	特になし
C	○	○				×	△	①活動組織の補強、活動の理念・目標・計画・方針・内容を再度検討②分科会活動をスタートしてほしい③他の先行のルートとの情報交流④人材発見と育成⑤地域外からの（正則で正しい目を持った）アドバイザーの起用（初動期）
D	○			○		△	○	地域資源のよりいっそうの吟味、活動団体そのものの活動内容、地域住民との関わり、計画への主導性等の明確化
E	○	○		○	○	○	△	天北オロロンルートの人たちの顔がよく見えない。それぞれの熟度がたりない
F	○	○		○	○		○	

シーニックバイウエイルート審査委員会 意見

■シーニックバイウエイルート

◇宗谷シーニックバイウエイ

活動団体同士や行政、地域産業と連携した取り組みを意欲的に進め、最北のシーニックバイウエイとしての魅力を向上させることに期待したい。また、ルート全体の企画・運営・マネジメントの体制強化が必用である。

ホスピタリティ向上、人的資源のアピール等、来訪者をお迎えする「おもてなし」について、具体的に活動計画に反映されたい。

今後、道外、国外の地域づくりの事例を踏まえると成功のポイントは、「自主性」「挑戦」「活動のネットワーク」「人材育成」「住民との連携」など挙げられる。これらに留意しつつ、地域に合ったスピードで具体的な活動を展開していくことが望ましい。

特にルート内における景観、自然、歴史、文化、レクリエーション資源などの地域資源の保全・改善のための活動を総合的に実施し、質の高い旅行空間の形成を目指しルートを運営するにあたり、以下の点に留意しつつ進められたい。

- ・ 地域特性の活用：北海道特有の気候風土を生かし、常に新しいものの追加、物語性の充実、国際競争力の強化を進め、通年性、持続性を確保
- ・ 景観への取り組み：景観意識の向上、景観や地域資源を生かしたコミュニティビジネスの創出
- ・ 自然に与えられた景観の活用に加え、まちなかの建物・看板等の規制や指導などの検討
- ・ 既存観光地からの脱却を目指し、歴史文化資源の活用、食文化、レクリエーション資源など幅広く地域の個性を生かした新たなツーリズムの展開に向けた取り組みの実施
- ・ 持続性の確保：参加する各主体（国、道、市町村、活動団体、住民）による持続的な責任ある行動とその活動や成果に対する外部評価やアドバイザーの採用
- ・ ホスピタリティ向上：研修プログラムの実施、地域での多様な人材育成
- ・ 全国・世界への情報発信、旅行会社等民間企業との連携
- ・ 開かれた運営体制：継続的な参加者の募集、地域住民やコミュニティとの連携・協働

■シーニックバイウェイ候補ルート

◆シーニックバイウェイ候補ルート全体に対する意見

今後、運営体制の強化、人材発掘・育成、地域資源の発掘・活用、活動団体や関連団体との連携・協働のあり方などについての議論と合意形成等の取り組みや、活動団体同士や行政、地域産業と連携した取り組みが重要である。

また、参加者がシーニックバイウェイの趣旨を十分に理解し、ルート全体での理念・目標・活動指針を明確にし、共有化を幅広く図る努力が必要「である。

◇南十勝夢街道

十勝平野・山麓ルートとの連携や差別化、襟裳岬地区とのコラボレーション等、ルートのあり方についての議論と合意形成が必要である。

農村文化と都市との関係、地域で開催されるイベントとの連携活動等を、どのように展開していくのか検討されたい。

さらなる運営体制の強化、人材の発掘・育成、活動団体や関連団体との連携・協働のあり方などについての議論と合意形成等に取り組むとともに、ルート全体での理念・目標・活動指針を明確にし、参加者の意識の共有を幅広く図る必要がある。

◇十勝平野・山麓ルート

南十勝夢街道との連携や差別化、また、他のシーニックバイウェイルートとの繋がりや差別化を考えたルートのあり方についての議論と合意形成が必要である。

大規模農地と山脈がおりなす北海道らしい景観資源を活用し、滞在地としての優位性をアピールする工夫が必要である。

◇萌える天北オロロンルート

札幌や旭川から宗谷地域に向かう海岸ルートとしての位置づけ、他ルートとの連携・差別化について検討されたい。

海岸地域としての地域資源の一層の吟味・価値意識の共有等に取り組まれない。

さらなる運営体制の強化、人材の発掘・育成、活動団体や関連団体との連携・協働のあり方などについての議論と合意形成等に取り組むとともに、ルート全体での理念・目標・活動指針を明確にし、参加者の意識の共有を幅広く図る必要がある。

シーニックバイウェイルート指定の審議

1. 推進協議会構成機関からの意見

(1)シーニックバイウェイルート

①宗谷シーニックバイウェイ

A: 当該ルートは、日本の最北に位置し、利尻礼文サロベツ国立公園や北オホーツク道立自然公園を有する宗谷地域にあり、豊かな自然と景観に恵まれている。観光と農業・漁業、さらには自然や歴史・文化など地域持つ資源を効果的に結びつけるなど、各地を結ぶ広域観光ルートを形成し、当該地域の優れた自然環境や豊かな農水産物などを活かした地域づくりが進められており、当該ルートがシーニックバイウェイルートに指定されることにより、地域の活性化が一層図られることが期待できる。

B: 組織・運営方針・活動計画等、十分な検討を重ねてきたことが伺え、指定ルートとして適格と思われる。礼文・利尻を含むことで「航路」が加わっている他にも、エコマネー・地域通貨の要素を織り込み、かつ運営資金の確保も視野に入れた「シーニックマイレージシステム」の実施を予定しているなど、他ルートにない特色を備えていると思われる。

C: 日本の最北端地域としての魅力が十分に感じられ、11のルートステージで特徴ある演出で迎えようとする意気込みが感じられる。活動計画もしっかりしており、実際の運営が成功に結びつけることにより期待が出来る。特に、マイレージシステムは、興味が湧き、是非継続性があるものにして頂きたい。

D: サロベツナチュラルロードについては、利尻礼文サロベツ国立公園内で、上サロベツ自然再生協議会が策定した自然再生全体構想における自然再生の対象区域も含まれています。この区域では、花の時期だけでなく通年を通して魅力あるものにしていくことが課題となっています。サロベツ原生花園には現在ビジターセンターが整備され、5～10月には多くの観光客等に利用されていますが、今後はこのビジターセンターと原生花園園地の機能を円山地区に移設し、自然とのふれあい、情報発信及び交流拠点として「円山ビジターセンター(仮称)」(平成20年度完成予定)が整備されることから、計画に当たってはこれらの活用も念頭においてくださるようお願いいたします。

(2)シーニックバイウェイ候補ルート

①南十勝夢街道(候補ルート)

A: 当該ルートは、十勝地域の南部に位置し、日高山脈、清流などの自然環境や広大な畑作、酪農経営が展開等が展開された壮大な景観にも恵まれ、十勝の自然を満喫し、うるおいと活力ある地域づくりが進められており、南十勝夢街道がシーニックバイウェイルート指定されることにより、地域の魅力が一層高まることが期待される。

B: 同地域内から本ルートと③南十勝夢街道の2候補ルートの申請があり、かつ帯広市周辺地域が含まれていない。「観光振興」「景観づくり」の面からは、既に日本国内では「十勝」という地域が相応に認識されていることから、より大きな相乗効果が期待される十勝地域内でルート(エリア)1本化は検討できないのか？

C: 地域の魅力は感じられたが、旅するものとしての気持ちとして、知名度が高い襟裳岬を含めることが出来ないか検討をお願いする。

②十勝平野・山麓ルート(候補ルート)

A: 当該ルートは、十勝平野の西北部に位置し、日高山脈、東大雪山塊など雄大で美しい豊かな自然環境に恵まれ、十勝の自然を満喫し、うるおいと活力ある地域づくりが進められており、十勝平野・山麓ルートがシーニックバイウェイルート指定されることにより、地域の魅力が一層高まることが期待される。

B: 同地域内から本ルートと③南十勝夢街道の2候補ルートの申請があり、かつ帯広市周辺地域が含まれていない。「観光振興」「景観づくり」の面からは、既に日本国内では「十勝」という地域が相応に認識されていることから、より大きな相乗効果が期待される十勝地域内でルート(エリア)1本化は検討できないのか？

C: 都市間ルートの国道38号及び274号から、遊び心を誘うルートとして期待できる。魅力ある自然と地域の接待心をどのように演出してくれるのか楽しみである。

D: 計画の作成に当たっては、国立公園における行為規制や公園事業の内容も念頭においてくださるようお願いいたします。

③萌える天北オロロンルート(候補ルート)

A: 当該ルートのある留萌地域においては、広域観光ルート「日本海オロロンライン」の中央に位置し、「暑寒別天売焼尻国定公園」や「利尻礼文サロベツ国立公園」を有し、豊かな自然と景観に恵まれ、このような自然や潜在的な地域資源を生かした地域づくりが進められており、シーニックバイウェイの指定により、地域の魅力が一層高まることが期待される。

B: ルート内市町村全てが第一次産業・鉱業の衰退の影響から、過疎地域の指定を受けており、今後の地域活性化に向けて、本候補ルート申請は意義あるものと思われる。

各市町村の連携に加え、活動団体に観光協会、商工会等の他に、農協・漁協等第一次産業の団体も参加しており、基本方針にも謳われている「食による観光振興」によって「地域づくり」「地域の活性化」が進められることが期待される。

地域に根ざした運営活動計画と新たな観光資源の発掘に期待。

C: 最北端への日本海側ルートとして、是非実現してほしい。自然・歴史的にも魅力ある地域であり、期待したい。

D: 計画の作成に当たっては、国立公園における行為規制や公園事業の内容も念頭においてくださるようお願いいたします。なお、環境省が羽幌町に整備・運営している「北海道海鳥センター」も現存する主要な資源として認識していただくべきと考えます。

第2回シーニックバイウエイルート及び
シーニックバイウェイ候補ルートの指定について（案）

平成18年4月18日
シーニックバイウェイ北海道推進協議会

1. シーニックバイウェイ北海道実施要綱第十八条第一項及び第二項の規定に基づき、次の通りシーニックバイウエイルートの指定を行う。

名 称：宗谷シーニックバイウェイ
ルート：稚内市、猿払村、豊富町、礼文町、利尻町、利尻富士町
提案者：宗谷シーニックバイウエイルート運営代表者会議

2. また、シーニックバイウェイ北海道推進の基本方針に基づき、シーニックバイウェイ北海道実施要綱第十八条第一項及び第二項の規定に準じて、次の通りシーニックバイウェイ候補ルートの指定を行う。

名 称：南十勝夢街道
ルート：中札内村、更別村、幕別町忠類地区、大樹町、広尾町
提案者：「南十勝夢街道」ルート代表者会議

名 称：十勝平野・山麓ルート
ルート：新得町、清水町、鹿追町、士幌町、上士幌町
提案者：「十勝平野・山麓ルート」代表者会議

名 称：萌える天北オロロンルート
ルート：増毛町、留萌市、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町
天塩町、幌延町
提案者：萌える天北オロロンルート シーニックバイウェイ代表者会議

なお、上記指定を行うにあたって、別紙の通り意見を付記する。

■シーニックバイウエイルート

◇宗谷シーニックバイウェイ

活動団体同士や行政、地域産業と連携した取り組みを意欲的に進め、最北のシーニックバイウェイとしての魅力を向上させることに期待したい。また、ルート全体の企画・運営・マネジメントの体制強化が必用である。

ホスピタリティ向上、人的資源のアピール等、来訪者をお迎えする「おもてなし」について、具体的に活動計画に反映されたい。

今後、道外、国外の地域づくりの事例を踏まえると成功のポイントは、「自主性」「挑戦」「活動のネットワーク」「人材育成」「住民との連携」など挙げられる。これらに留意しつつ、地域に合ったスピードで具体的な活動を展開していくことが望ましい。

特にルート内における景観、自然、歴史、文化、レクリエーション資源などの地域資源の保全・改善のための活動を総合的に実施し、質の高い旅行空間の形成を目指しルートを運営するにあたり、以下の点に留意しつつ進められたい。

- ・地域特性の活用：北海道特有の気候風土を生かし、常に新しいものの追加、物語性の充実、国際競争力の強化を進め、通年性、持続性を確保
- ・景観への取り組み：景観意識の向上、景観や地域資源を生かしたコミュニティビジネスの創出
- ・自然に与えられた景観の活用に加え、まちなかの建物・看板等の規制や指導などの検討
- ・既存観光地からの脱却を目指し、歴史文化資源の活用、食文化、レクリエーション資源など幅広く地域の個性を生かした新たなツーリズムの展開に向けた取り組みの実施
- ・持続性の確保：参加する各主体（国、道、市町村、活動団体、住民）による持続的な責任ある行動とその活動や成果に対する外部評価やアドバイザーの採用
- ・ホスピタリティ向上：研修プログラムの実施、地域での多様な人材育成
- ・全国・世界への情報発信、旅行会社等民間企業との連携
- ・開かれた運営体制：継続的な参加者の募集、地域住民やコミュニティとの連携・協働

■シーニックバイウェイ候補ルート

◆シーニックバイウェイ候補ルート全体に対する意見

今後、運営体制の強化、人材発掘・育成、地域資源の発掘・活用、活動団体や関連団体との連携・協働のあり方などについての議論と合意形成等の取り組みや、活動団体同士や行政、地域産業と連携した取り組みが重要である。

また、参加者がシーニックバイウェイの趣旨を十分に理解し、ルート全体での理念・目標・活動指針を明確にし、共有化を幅広く図る努力が必要である。

◇南十勝夢街道

十勝平野・山麓ルートとの連携や差別化、襟裳岬地区とのコラボレーション等、ルートのあり方についての議論と合意形成が必要である。

農村文化と都市との関係、地域で開催されるイベントとの連携活動等を、どのように展開していくのか検討されたい。

さらなる運営体制の強化、人材の発掘・育成、活動団体や関連団体との連携・協働のあり方などについての議論と合意形成等に取り組むとともに、ルート全体での理念・目標・活動指針を明確にし、参加者の意識の共有を幅広く図る必要がある。

◇十勝平野・山麓ルート

南十勝夢街道との連携や差別化、また、他のシーニックバイウェイルートとの繋がりや差別化を考えたルートのあり方についての議論と合意形成が必要である。

大規模農地と山脈がおりなす北海道らしい景観資源を活用し、滞在地としての優位性をアピールする工夫が必要である。

◇萌える天北オロロンルート

札幌や旭川から宗谷地域に向かう海岸ルートとしての位置づけ、他ルートとの連携・差別化について検討されたい。

海岸地域としての地域資源の一層の吟味・価値意識の共有等に取り組まされたい。

さらなる運営体制の強化、人材の発掘・育成、活動団体や関連団体との連携・協働のあり方などについての議論と合意形成等に取り組むとともに、ルート全体での理念・目標・活動指針を明確にし、参加者の意識の共有を幅広く図る必要がある。